

蛇口の向こう側にある「24時間の守り」

～浄水場の知られざる苦労と施設管理～

私たちが毎日、何気なく使っている水。蛇口をひねれば安全でおいしい水が出てくることは、今や当たり前のように感じられます。

しかし、その当たり前の裏側では、安心して使える水を届けるために努力を続けています。

このパネルでは、普段目にすることのない浄水場の仕事や、水を守るための苦労についてご紹介します。

365日24時間の運転・監視



川やダムの水は、雨が降れば濁り、夏にはかび臭が発生することもあります。わずかな変化も逃さないよう、24時間体制で水の状態を確認し、運転を調整しています。

地道なメンテナンス



安定した取水を確保するため、取水口に堆積した土砂や漂流物を定期的に撤去しています。

良好な機能の維持



ろ過池等の浄水場施設の清掃を行い、機能を常に良好な状態に保っています。

故障リスクの低減



清掃や部品の計画的な交換により、突発的な事故を未然に防いでいます。

決して妥協しない、「安全」へのこだわり

～目に見えない「わずかな変化」を、見える「安心」へ～

安全な水を届けるために、欠かすことのできないのが水質検査です。水は自然から取り入れているため、天候や季節の変化によって状態が日々変わります。

浄水場では、わずかな異変も見逃さないよう、専門の職員が何度も検査を行い、数値やにおい、色の変化まで細かく確認しています。

目には見えないリスクと向き合いながら、常に「安心して使える水かどうか」を確かめ続けることが、水質検査の大きな苦勞であり、重要な役割です。

薬品注入の適正量の確認



薬品注入の適正量の確認や沈殿処理の効果を評価し、水の品質を確保しています。

定期的な水質検査



水道水の安全・安心を確保するため、水質基準を遵守しているか各段階で定期的に水質検査を行っています。

リアルタイムでの臭気検査



リアルタイムで連続的な臭気検査を行い、水質の異常を迅速に検知します。

末端受水点での測定



末端受水点でも濁度、残留塩素などを測定して水質の安全性を確認しています。

どんな時も、水道供給を止めない

～強靱な水道の確保：災害・事故への備え～

地震や豪雨などの自然災害、そして突発的な事故が発生した場合でも、水の供給をできる限り止めないことが浄水場の重要な役割です。そのために、施設の耐震化などの「備え」と、事故発生時の迅速な「対応」の両面から、24時間体制でライフラインを守り続けています。

耐震化の推進（事前の備え）

管路の耐震化工事



地震による水道管の損傷を防ぐため、管路の耐震化工事を計画的に進めています。

伸縮可とう管の補強



地震の揺れや地盤の動きに合わせて伸び縮みする「伸縮可とう管」に補強を施すことで、破損や漏水のリスクを大幅に低減し、耐久性を高めています。

災害・事故への迅速な対応（発生時の行動）

漏水事故発生状況



漏水が発生した際は、速やかに場所を特定して周辺の安全を確認し、破損した管の補修や交換を昼夜を問わず行います。

漏水復旧作業



作業後は通水試験や水圧確認を徹底し、異常がないことを確かめた上で、道路などの復旧作業を迅速に進めます。こうしたスピード感のある対応が、断水などの影響を最小限に抑える鍵となります。

未来へつなぐ、水道の持続性

～設備更新とサービスの持続～

安全で安定した水を届け続けるためには、浄水場の設備を常に良好な状態に保つことが欠かせません。

多くの設備は長年にわたって使用されており、定期的な点検や修理を行いながら、大切に使い続けています。

しかし、老朽化が進むと、計画的な設備更新が必要になります。

限られた予算や運転への影響を考慮しながら、水の供給を止めることなく工事を進めることは、設備更新における大きな苦勞の一つです。

＜監視制御設備＞
(麓山浄水場)



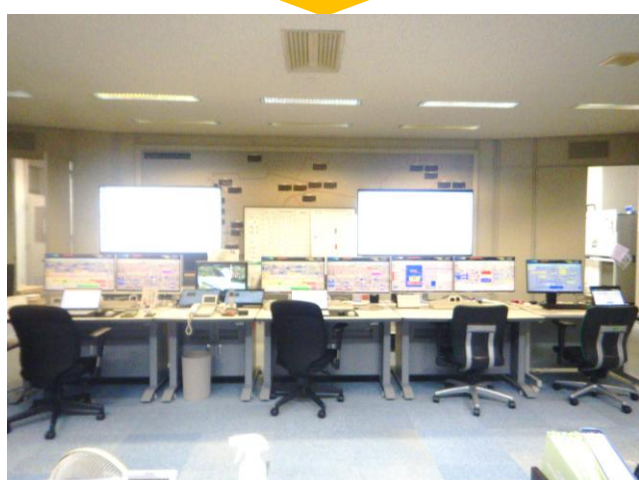
着手前



既設盤撤去



新設盤搬入

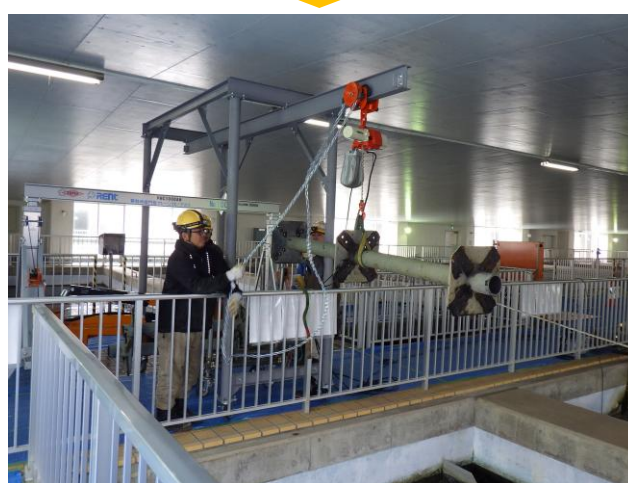


完 成

＜フロック形成池設備＞
(麓山浄水場)



着手前



既設機器撤去



新設機器搬入



完 成

＜自家発電設備＞
(南川沈砂池)



着手前



既設発電機撤去



新設発電機搬入



完 成